

弟島におけるノブタの根絶の達成

環境省は、2005年から弟島におけるノブタの排除を実施しています。これまでに20頭を排除しています。排除と同時に行われているモニタリング調査結果により、2007年9月以降、ノブタの生息は確認されていません。今後のモニタリングを十分かつ慎重に行うことは必要ですが、これまでの結果からは、弟島からのノブタの根絶が達成されたものと考えられます。

1. ノブタの生息状況

- ・ノブタは小笠原諸島では弟島のみ生息しており、弟島の東海岸・西海岸に挟まれた地峡以南（半島状）を除く広い地域に分布していることが確認された。また、生息頭数は比較的少なく、大きな群れを形成しない。
- ・一方、ノブタによる陸産貝類・植生・ウミガメの卵に対する摂食や、掘り起こしによる土壌生物の攪乱等が指摘され、さらに糞分析からオガサワラチビクワガタ等の固有種の捕食も確認されており、ノブタによる生態系への影響は大きいと考えられる。

2. ノブタ捕獲状況の経緯

年	捕獲	捕獲数	特記事項
2005	ワナ捕獲開始	ワナにより3頭捕獲	踏査による痕跡調査、自動撮影によるモニタリング
2006	ワナ捕獲継続	捕獲なし	踏査による痕跡調査、自動撮影によるモニタリング。ガジュマルへの嗜好性判明
2007	銃器捕獲開始	17頭捕獲(ワナ7頭、銃10頭)	踏査による痕跡調査、自動撮影、固定枠痕跡調査によるモニタリング
2008	銃器捕獲継続	捕獲なし	踏査による痕跡調査、自動撮影、固定枠痕跡調査によるモニタリング
2009	銃器捕獲継続	捕獲なし	踏査による痕跡調査、自動撮影、探索犬による探査

3. 生息状況モニタリング

- ・踏査による痕跡調査：島内を踏査し、糞・足跡・食痕、特にノブタに特徴的なヌタ場などの痕跡を調査する手法。
- ・自動撮影による調査：ノブタの嗜好性の高いガジュマルの周辺にIRセンサー付のカメラを設置し、体温を持つ動物を撮影する手法。
- ・固定枠痕跡調査：採食場所など、ノブタが頻繁に利用すると考えられる場所に、方形区を設置し、残された足跡など痕跡から、残存個体の有無を確認する手法。
- ・探索犬による探査：ノブタの臭いに反応するように訓練した「探索犬」により、広範囲で正確にノブタ生息状況をチェックする手法。

4. 根絶宣言の根拠

- ・特にノブタの嗜好性の高いガジュマル等の主な採食場所での痕跡は、上記のモニタリング調査の結果2007年9月以降2年以上確認されていない。
- ・また、特徴的である本種の痕跡も見られず、犬による探査を含むモニタリング調査においても生息が認められない。以上より、現時点において、弟島からのノブタの根絶が達成されたものと考えられる。

下図には、捕獲の経緯、捕獲数の推移を示した。2007年9月以降、捕獲・痕跡確認ともに見られない。

ノブタは植物の実を好んで採食し、特にガジュマルの実への嗜好性が高いことが判明した。また、ガジュマルは島内の4箇所に集中しており、ガジュマル周辺での捕獲により効率的な捕獲が進んだ。

